

護つてゆくかは、現代のエジプト人にとって最大の歴史的課題といえるであろう。

〔注〕

- (1) アスワン・ハイダムが与えた環境問題への影響については、拙稿「アスワン・ハイダムの建造が環境に与えた諸影響をめぐって」〔環境情報科学〕第一九卷第三号一九九〇年八月〕を参照されたい。

(長沢 栄治)

コラムⅡ近代化の陰で◎ヤヒヤじいさんの嘆息(イエメン)

なあ、バルキースや、お前が今年から通い始めた学校はな、お前の父さんが小さい頃はありやせんかった。

だいたいこのサナアにはお偉い方の坊ちゃんたちが通う学校はあったけれど、それ以外にはモスクの寺小屋があつたくらいのもんじゃない。ましてやお前のような娘っ子が学校に通うなんてとんでもないことだった。なんでもこのじいさんのそのまたじいさんのころはサナアにオスマン・トルコの知事がおつてな、女学校があつたそう。じゃがお前のひいじいさんが生まれた年

にトルコ人たちはいなくなつてな、その女学校は監獄になつてしまつたらしい。まあ学校開いておつても娘を通わせようなんちゆう酔狂なもんはサナアの人間にはおらんかつたじゃろう。

この町が急に変わり始めたのは、お前も学校で習つたらうが一九六二年に革命が起こつてからじゃ。忘れもせん九月二六日のことで、お前の父さんはその日に生まれたんじゃ。王様を追い出して共和国になつた。エジプト人がやつて来て、交通の邪魔だというて町をぐるつと取り囲んでいた市壁を壊してしまひよつた。そりや革命は結構なこつたが、あれからというものサナアは住みにくくなるばかりじゃ。

●ホコリとゴミがあふれとる

だいたいわしがお前位の年の頃、このサナアは今よりずっときれいで、静かだつたもんじゃ。今みたいは一日中ホコリだらけではなかつたわ。このコーランを見てみい。今朝開いて読みさしとつたら、昼にはもうこのとおり砂でざらざらじゃわい。自動車のせいじゃろう、ホコリを巻き上げて走りよる。それにあの音じゃ、うるそうてモスクのアザーンの声が聞こえん、だでモスクの方でもスピーカーなんちゆう無粋なもんをつけることになつたんじゃ。ああ、今日は火曜日か。そうかゴミを出す日か、母さんを助けてゴミを出してこい。はいはいご苦労じゃつたな。じゃがまあ、不便になつたもんじゃ、週に二遍しかゴミを出してはいかんのか。余計な決まりばかり作りよるな、政府ちゆうもんは。まだ市壁があつた頃はな、毎日掃除人が通りを掃除しに来ておつたし、ゴミといつてもたいしてなかつたが表に投げとけば山羊が拾つて食いよつたから通りはき

れいなもんじやった。今じゃ空缶だのプラスチックの容器だのビニール袋だのは山羊も食いやせんからな。

●サナアの水はうまかつたんじや

だいたいわしはプラスチックに入ったミネラルウォーターとやらが好かん。水はアツラーの賜り物じや、買うもんじやありやせん。昔は中庭の井戸から水を汲んでな、水がめに入れて麻袋に包んで窓の外に吊るしときや冷蔵庫なんぞ無くとも冷たくておいしい水が飲めたもんじや。水道なんぞは無かつたんじやよ。井戸を持つとらん者でも辻角ごとに水場があつてな、井戸水が蓄えてあつたから貧乏人でも誰でもそこから水を汲んでよかつたんじや。それが今では大概の井戸は涸れてしまよるし、水道の水は小便臭いしで、飲み水はミネラルウォーターを買う羽目になるんじや。

バルキースや、何で井戸が涸れるか知つとるか。雨が降らないからではないんじや。それはな、市壁の外の新市街に大勢人が住むようになってな、みんなが一斉に井戸を掘って水を汲み始めたからじや。そうすると水位ちゆうものが下がって、この辺り旧市街の古い井戸は浅すぎて水に届かんようになるんじや。よそ者が来てわしらの水を吸い取ってしまよつたようなもんじや。

革命前は市壁の外は畑しかなかつたんじやが今じゃ道路は出来とるし、家も一杯建つたな。そうか、サナアの人口は四〇万人を超えとるちゆうのか。じやがこの旧市街の人口は増えとらんじやろ。そうじや、お前の友達のアルワの家も新市街に引っ越したというじやないか。アルワのじ

いさんが嘆いておった。

うん、水道水が小便臭いわけか。そりゃ水道水だつてもとは井戸水じゃからおいしいはずなんじゃ。じゃが貯水池からここへくる間にはパイプが破れていたり繋ぎ目がゆるかったりしてな、雨水やら下水やらが混ざってしまうんじゃ。それにな、あの水洗便所がいかん。なんもかんも一緒くたにして地面の中に流してしまおるじゃろ。昔からサナアではな、どの家でも大便と小便は分けてためるようになっておった。小便は地中にながしてもすぐにきれいになるから構わんのじゃ。大便はな、毎日汲み取りがまわってきてそれを公衆蒸し風呂の燃料に使っていたもんじゃ。汚いものをたれ流さずにすむし燃料にはなるし、昔の人の知恵じゃな。

●薪でパンを焼いた頃はな

そうじゃ、燃料といえばお前の母さんがガスボンベが切れたと言っておったが父さんは買いに行ったのか。そうか買に行つたまままだ帰つてこんのか。大方行列に並んで買つとるんじゃろう。ボンベも便利でいいが買い替えるのが面倒でいかな。あの重たいものを持ってきて、三階の台所まで運び上げるのはわしらには骨じゃわい。お前のばあさんが死んでしまつてからもう一〇年ちよつと経つが、あれは死ぬまで薪と炭だけで料理しておった。今でも皆パン焼き釜の燃料だけは薪を使つておるが、近ごろは砂漠のほうでも、海岸のほうでも木が少なくなつたとかでずいぶん値上がりしているようじゃな。

お前のばあさんの焼くパンはな、そりゃうまかつたんじゃ。パンが上手に焼ければ女は一人前

じゃ、だがあれもガスを使って料理しとればもう少し長生きしてお前の顔を見ることができたかもしれないなあ……。薪を使うと煙が出るじゃろ。狭い台所で換気も悪かったし、胸を患ってしもうたんじゃ。あのころはまだ結核病院もなかったし、かわいそうなことをしたな……。

じゃがわしはアッラーのおぼし召しでこの通り元気じゃ。お前の子どもの顔を見ることがもできるじゃろう。お前はいまいくつになったんじゃ、七つになったか。それじゃああと一〇年もすればひ孫の一人二人はいるじゃろう。何？ おらん？ どうしてじゃ。お前のばあさんが一七の時には三人目の子を生んどったぞ。何、大学へ行く、女のお前がか？ こりゃたまげた。

それじゃ一体いつになったらわしはひ孫にあえるんじゃ。二〇年後じゃと？ わしがそんなに長生きできるものか。ほう、お前は大学を出て医者になるのか。で、わしを長生きさせてくれるというのか。そりやありたいことじゃ。そりやあ楽しみなことじゃが、あと二〇年生きるとなるとサナアがこれ以上住みにくくならんようにもして欲しいもんじゃなあ。

(佐藤 寛)